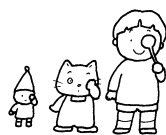




# 平成 27 年 10 月の園だより



## 健康診断

8日(木) 内科・眼科 13:00～  
耳鼻科(幼児組) 13:20～  
15日(木) 耳鼻科(乳児組) 13:20～

内科、耳鼻咽喉科、眼科の健康診断があります。気になることや園医にたずねたい事などありましたら、事前に担任までお知らせください。

## みみょうフェスティバルのお知らせ

今年の作品展では子どもたちがたくさんの素材で遊んできた物を中心に五感を使って遊べる展示にします。乳児組のテーマは“わくわく ときどき さわってみよう”・幼児組のテーマは“おどろき！はっけん！みみょう広場”です。楽しい展示になるように計画しています。子どもたちの創意工夫満載の作品展を、どうぞお楽しみに！

物品販売やみみょう特製のおいしい食べ物もたくさん用意しています。ご家族おそろいでお楽しみください。また保護者の皆様にはお手伝いをしていただくこともあります。どうぞご協力のほど、よろしく願いいたします。

日時 10月24日(土)  
10:00～14:00  
場所 第二みみょう保育園



消さないで  
あなたの心の  
注意の火  
広島市南消防署  
警防課 救助係



## 「思いやりのある子を育てる」

ある聞き取り調査で、保護者にどんな子に育ててほしいか尋ねたところ、「元気で活発な子」「状況判断ができる子」「何にでも意欲的に挑戦できる子」、そして「思いやりのある子」「心優しい子」「人の痛みがわかる子」に育ててほしいという回答であったそうです。その中でも最も多かった回答が「思いやりのある子」だったそうです。考えてみれば、育ててほしい子ども像のいずれもが「自己肯定感」に結びつくことがわかると思います。

では、「思いやりのある子」を育てるにはどうすればよいのでしょうか？NHK「すくすく子育て」でおなじみの白梅学園大学学長 汐見稔幸先生は、親への絶対的な信頼感がやさしさの原点であるとおっしゃられています。つまり、「たとえ、どんなことがあっても絶対におまへの味方だよ！」ということを繰り返し、繰り返し感じ取らせることが大切だということです。注意すべきことは、愛しさゆえに立派な大人にしようと厳しくしつけをする場合です。習い事を嫌がるのに無理にさそうとするとか、過干渉になるとか、すぐに口出しするとか、行き過ぎれば逆効果ばかりか、子どもは自分にとって味方だと信じなくなります。よい例が箸の矯正です。毎日のように口うるさく矯正指導すれば、食べる意欲すらなくしてしまいます。これでは絶対的信頼関係は築けません。

登降園時の光景ですが、ポーっとしている子に「早くして！早くしなさい！」、お友だちとふざけて帰ろうとしない子に「いい加減にして！何度言ったらわかるの！」、つまずいてこけて泣いている子に「何をしてるの！ちゃんと前を見ないからよ！」と大声で怒鳴っている保護者をたまに見かけます。子どもだって機嫌の悪い時もあれば、体調がすぐれない時もあります。よくわからないままポーっとう行動していることもあります。しかし、子どもの行動には必ず理由があります。その理由を理解されないまま、ただ怒られ、せかされたらどう思うでしょうか？自分のことは何もわかってくれない

ときっと思うはずで。そこには絶対的信頼関係はないと思います。

そうした時、急ぐ気持ち、イライラする気持ちをグッと堪えて、一呼吸おいてから、「しんどのの？」「どうしたいの？」「大丈夫？痛かったでしょう？」など、やさしく声かけしてあげるだけで、子どもは肯定的に受けとめてくれたと思うでしょう。肯定的に受け止めることの繰り返し「思いやりのある子」に育て、プラス思考で何事に対しても意欲的に取り組む子どもを育むと考えます。もちろん、「絶対におまへの味方だよ！」とか、「嬉しいな！」とかいう体験だけでは「思いやりのある子」には育ちません。時には叱咤激励されるという体験も必要です。叱らない子育てという考え方もありますが、していいことや悪いこと、社会のルールやマナーなどは教えなければならないと考えています。

先月号で、「教える」「しつける」「叱る」「怒る」といった否定的なかかわりは、心を育てている今でなくていいと書きましたが、まずは、認められたり、褒められたり、可愛いと言われたり、そういった肯定的なかかわりを今はたくさんしてほしいということであり、決して自由気ままな放任の子育てをしてほしいということではありません。

「思いやりのある子」を育てるには、絶対的信頼関係のもとに「自己肯定感」を育むことが肝要ですが、思いやりをもつ体験をすることも必要です。そのためには、大人が誰かを思いやる姿を常日頃から見せること。子どもの気持ちをくみ取り言葉にしてあげることが大切です。ご家庭においても、お手伝いをして喜ばれたり、やさしくされて嬉しかったりという体験を積み重ねてほしいと思います。また、園では、異年齢交流を通じて思いやりをもつ体験を繰り返すとともに、他者と協力しながら新しい価値を生み出したり、自らが主体的に未来を切り開いていく力を育てる質の高い保育を実践していくことで、「自己肯定感」や「主体性」を育み、他者を思いやる心を育ててまいりたいと思います。

## しし舞い



今を去ること約 400 年前仁保島村一帯に悪病がはびこり、村人が悪霊を追い払うために獅子を作り、一軒一軒まわったといういわれから、秋祭りの頃に行われるようになったといわれています。

当園にも14日(水)に、町内の皆さんと獅子がやってきます。

## いも掘り

7日(水)に白組さんが、くまの・みらい農園にいも掘りに行きます。

とってきたお芋は、小さいお友だちもみんなで、焼き芋パーティを開いて楽しみたいと思います。



ゆれながら  
前へ進まず  
お前がくれた  
木馬の時間  
子育ては

歌人 依万智  
歌集「プーさんの鼻」より



子育ては、うまくいくことばかりではないですね。でもうまくいかない時も子どもはちゃんと育っているのです。

